在宅療養児をもつ保護者の養育負担感に影響をおよぼす要因の関連モデルの検討-子どもの医療的ケア度、援助要請スタイルおよびソーシャルサービス認知と利用の関連-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齊藤, 麻子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003388

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 50 号

在宅療養児をもつ保護者の養育負担感に影響をおよぼす要因の関連モデルの検討
-子どもの医療的ケア度、援助要請スタイルおよびソーシャルサービス認知と利用の関連-

（A Model of the Factors Affecting the Sense of Burden of Childcare in Caregivers of Children in Home Care
-Association with Child’s Level of Medical Care, Help-Seeking Style and Perception and Utilization of Social Services-）

齊藤　麻子（さいとう　あさこ）

博士（看護学）

論文審査結果の要旨

小児集中医療の高度化および在宅療養児の医療的ケア範囲の拡大により、子どもの養育を担う保護者は、その負担感やソーシャルサービス利用など、様々な課題に直面している。しかし、このような家族に対し、他者への援助要請（Help-seeking）に着目した看護研究は見当たらない。

本研究は、在宅療養児保護者の「援助要請スタイル」、「ソーシャルサービス認知」、「ソーシャルサービス利用」および「子どもの医療的ケア度」が「養育負担感」に及ぼす影響の関連モデルを仮定し、全国 16 か所病院・障害児通所施設を介して在宅療養児保護者への質問紙調査を実施し、104 名を分析対象にモデルの構造を検証した関係性探索型研究である。

援助要請スタイル分類別に仮定した 4 モデルについて共分散構造分析により解析した結果、「養育負担感」と「ソーシャルサービス認知」、「ソーシャルービス利用」との間には直接の関連は見られず、医療関係者への〈過剰型〉と配偶者・家族への〈回避型〉による「援助要請スタイル」の型および「医療的ケア度」が「養育負担感」に影響を及ぼし、また「医療的ケア度」と「ソーシャルサービス認知」が「ソーシャルサービス利用」に影響を及ぼすモデルが最も高い適合度を示した。したがって在宅療養児保護者の「養育負担感」には「医療的ケア度」と「援助要請スタイル」が影響し、他者に援助要請できることが「養育負担感」を軽減させることが明らかになった。

本審査委員会では、本研究は在宅療養児をもつ保護者の養育負担感と援助要請との関連に着眼し実証した先駆的な取り組みであり、小児看護学研究の発展に寄与する価値ある研究であると判断した。よって、本論文は博士（看護学）の学位を授与するに値するものと判定した。